

季刊・オーディオアクセサリ

Audio Accessory

2019 WINTER 175

AEx
オーディオ銘機賞
Audio Excellence Award 2020

AA
AWARD
アクセサリ銘機賞
2020

発表!



重点アクセサリ研究

「載せる」「潜らせる」

福田屋お薦め!

冬の静電気対策

Nicogi
スペシャルサンプラーCD
(※本誌付録あり)

breath of a forest
鳥の囀り
あへん
stalgic train
Jan Cruising
NANCER

Nicogi

特別付録

Nicogi サンプラー CD

アンプのカルスマ

鈴木哲が弾くギターの世界

(FUNDAMENTAL)



AA誌の注目記事はWEBでも楽しめます!

音に有害な高周波ノイズを吸い上げる 革新の最終兵器がベールを脱ぐ

日本のオーディオファンの間でも高い知名度を誇る英国のケーブルブランド、コード・カンパニー。同社から登場する今年いちばんの話題作はケーブルではなかった。その名は「グラウンドアレイ」。同社がケーブル開発において、長年にわたり重視してきた高周波ノイズ対策に完全決着をつけるべく登場したアイテムである。使用方法は空き端子に差すだけ。端子の仕様も7種類が用意され、あらゆるニーズに対応できるようになっている。その音質効果の大きさは早くも認められるところとなり、本年度の「オーディオアクセサリ銘機賞2020」では見事頂点にあたる「グランプリ」を受賞している。それではこの「グラウンドアレイ」とは一体どんな製品で、どんな効果があるのか？林 正義氏をはじめとした6人の審査委員がその魅力を語っている。なお、本製品は世界に先駆けて12月より日本で発売すること（他の国では来春に発売予定）。



Grand Prix
(グランプリ)



「グラウンドアレイ」は空き端子に差すだけ。振動、ノイズ対策のレベルは最高峰ケーブル「コードミュージック」と同等のものであるという

(英)コードカンパニーの「グラウンドアレイ」は本誌の姉妹誌である『アナログ64号』でも予告したが、いよいよラインアップが揃い、製品として発売される。同社の独自技術であるチューンドアレイを組み込んだ、とてつもなく高性能な、通称「ノイズ・ポンプ」と呼ばれるノイズ吸収プラグだ。使用方法は簡単で、機器の空き端子に装着するのみ。それだけで絶大な効果を発揮するのだ。

通称は「ノイズ・ポンプ」
空き端子に装着するのみ



Text by
林 正儀
Masanori Hayashi

この「グラウンドアレイ」が映えある「オーディオアクセサリ」銘機賞2020の最高栄誉である「グランプリ」に輝いた。一体どんな発明なのか？開発にいたる経緯やこのアイテム自体について、同社のアラン・ギブ社長から解説文が届いたので、参考にしながら話を進めよう。

ノイズは外部だけではなく 機器の内部にも存在する

この「グラウンドアレイ」が映えある「オーディオアクセサリ」銘機賞2020の最高栄誉である「グランプリ」に輝いた。一体どんな発明なのか？開発にいたる経緯やこのアイテム自体について、同社のアラン・ギブ社長から解説文が届いたので、参考にしながら話を進めよう。

この「グラウンドアレイ」が映えある「オーディオアクセサリ」銘機賞2020の最高栄誉である「グランプリ」に輝いた。一体どんな発明なのか？開発にいたる経緯やこのアイテム自体について、同社のアラン・ギブ社長から解説文が届いたので、参考にしながら話を進めよう。

The Chord Company Ground ARAY

¥88,000(1個・税別) ※実際の製品は写真と少し異なる場合あり

※写真のRCA、XLRのオスとメス、LAN(RJ45)のほかにもHDMI、USB-AとBNC仕様も含めて7種類がラインアップ
●サイズ: 全長約87mm×直径約20mm(プロトタイプの数値・端子部分を除く) ●質量: 60g(プロトタイプ) ●取り扱い: アンダンテラルゴ(株)

これを「チューンドアレイ」と命名した。今回の「グラウンドアレイ」はこの「チューンドアレイ」のノウハウを、異なるノイズ対策の製品として開発したものだ。この長い歴史からしても、近ごろ登場しているあれこれのノイズ対策プラグとは全くの別物と知るべきだ。2017年にはより効果的な次世代のアレイ技術の開発に着手。2年の歳月を経て、この「グラウンドアレイ」が誕生したわけである。

熟練エンジニアが手がけ7種類の仕様が出揃う

新たに登場した「グラウンドアレイ」に関して、まずは現在のラインアップを紹介しよう。RCA、XLRのオスとメス、そしてBNC、LAN(RJ45)、HDMI、USB-Aの7タイプである。

実際の製品をご覧いただきたい。長さ約90mmのアルミ製シリンダーケースの内部には電気的にパッシブな5種類の素子が組み込まれている。詳細は企業秘密とのことだが、各素子はそれぞれ異なる帯域を受け待っており、あらゆる種類の高周波ノイズを吸収・熱に変換して発散しているというところらしいのだ。重さは約60g。研究成果がぎゅっりつまっていて、精密感溢れるたたずまいが美しい。高周

波ノイズを熱変換して逃がすヒートシンクのイメージがわかりやすいだろう。

極めて広帯域の高周波ノイズを効率よく吸い上げるため、「ノイズ・ポンプ」の愛称で呼ぶ。シールドの嚴重さは同社の最高峰ケーブルである「コードミュージック」級という。振動対策のダンピング材も入って嚴重にロックされているのだ。

「コードミュージック」などの製作を担当する熟練エンジニアが、1本1本時間をかけて組み上げている。細かなセッティングは各仕様で微妙に異なってくるはずで、まさに芸術品といえる領域である。

極限的といえる静寂から音楽が立ち上がってくる

それでは本邦初となる「グラウンドアレイ」の試聴体験を披露しよう。サクッとよい感触で端子に差さる。音を聴いて思わず息をのむ。いったいノイズはどこへ行ったんだ？音楽以外のよこれや雑味、さらにうっすらとしたベールのようなものまで、根こそぎ吸い込まれた印象だ。ヴォーカルもクラシックも、音源そのまんまの、真にニュートラルなサウンドが聴けた。極限的といえる超高S/Nと、デリケートな純度感である、ほぼ無

たった1本でもシステム全体を覚醒 コード社渾身の画期的アイテムである

音の深い静寂から音楽がすくっと立ち上がる。

それでいてドラムのアタックはエモーショナル、かつ強靱だ。リニアに伸び切るピーク音量は天井知らずだし、こじんまりしたライブのステージが天空をかけるがごとく立体的にスケールアップする。もう1度言うが、ミニカーからフェラーリの12気筒に乗り換えたような高揚感を味わうだろう。決して大きさではない感想と思えるくらいのクオリティアップとわかっ

て欲しい。

それぞれの機器の空き端子に差せば、さらに多重的な効果が期待でき、ブルーレイプレーヤーやプロジェクターなどの映像機器もフオーカスや遠近感、字幕の明瞭度

すら大きく再現力が向上する。1本8万8000円は確かに高価ではあるが、たった1本でもシステム全体を覚醒させるコード社渾身の画期的アイテムである。ぜひともまずは体験すべきだ。



「グラウンドアレイ」は写真のRCA、XLRのオスとメス、LAN(RJ45)のほかにもHDMI、USB-AとBNC仕様も含めた7種類がラインアップ。アナログ、デジタルを問わず、オーディオにも映像機器にも効果を発揮する

審査委員が語る「グラウンドアレイ」の魅力



井上千岳
Chitake Inoue

暗闇のような静寂感に覆われる体験したことのない絶大な効果

アンブなどの空き端子に挿入するショートピンやターミネーターなどはこれまでも存在するが、そこからノイズだけを吸収するというのは初めてだ。アース側にだけ接触しているということだから、アースに生じる微弱な電位を信号として扱うのかもしれないが、回路や動作原理は詳らかではない。しかし効果があるのは間違いなく、それ以上のことを詮索する必要はなさそうである。実際電源ノイズではなくアース・ノイズだけを解消するフィルターも実用化されているから、こういう装置があってもおかしくはない。

アースであれラインであれノイズ解消の効果は大体共通していて、まず背景が静かになりディテールから汚れっぽさがなくなり、ピントがよく合うようになる。本機もまさにそうで、音の外側がデッドブラック(暗闇)のような静寂感に覆われる。この感覚はちょっと独特なもので、本当にノイズが鎮まってしまうかと実感できないものである。音だけが宙に浮いているような感触である。それが本機では実現できる。ごくコンパクトな装置だが、利き目は絶大である。



鈴木 裕
Yutaka Suzuki

効果が明白で、変化も絶大 背景が決定的に静かになる

映像にせよオーディオの音にせよ、アンプやプレーヤー内部のノイズをポンプのように吸い取ってしまうオーディオアクセサリだ。使い方はコンポーネントの使用していない端子に差すだけ。内部で発生し、渦巻くノイズ成分を吸収し、熱エネルギーに変換・発散する、電気的にパッシブなデバイスだ。そもそもはケーブル用の技術であるスーパー・アレイやチューンド・アレイの技術(アンダンテラルゴのウェブサイトを参照されたい)からの応用とも言える。電磁気的な作用だけでなく、振動コントロールもしているという。

効果は非常に明白で、音の変化も大きい。アンプやCDプレーヤーの空き端子に差すと音の背景が決定的に静かになり、音場空間の透明度が飛躍的に高くなる。やわらかさやしなやかさが出るし、重い音はさらに重くなる。音の色彩感の発色が良くなったり、音像の輪郭が明確に、あるいはナチュラルになるのも印象的だ。映像でも効果も高い。コンポーネント自体のノイズに対して注目、対策しているが長い開発期間を何わせる完成度の高いアクセサリだ。



生形三郎
Saburo Ubukata

LANルーターでも効果が絶大 にじみない低域の描写力を再現

機器のグラウンドからノイズを吸い出すノイズ・ポンプと名付けられたこのアクセサリは、ユニークなコンセプトを持っていると言える。通常、この手のアクセサリは、機器に対してホットとグラウンドの両方が繋がるものが一般的だが、本機は、グラウンドに接続するのみとなっている。しかしながら、その効果は大きなものであった。実際に、いくつかのコンポーネントにテストしてみたが、プリアンプ、DAC、チャンネルデバイダーなどに使用したところ、S/N感の向上や、雑味感を抑制して滑らかな聴き心地が得られるという、大きな効果を聴き取ることが出来た。なかでも、特に筆者が良好だと感じたのは、RJ45コネクタ搭載タイプのGround ARAYを、無線LANルーターの空きポートに使用したときであった。無線LANルーターからはオーディオグレードのスイッチングHUBを接続し、そこからさらに、DACをUSB接続したNASへと接続していたが、その状態での使用では、再生音の背景ノイズが抑えられ、低域側の描写がよりいっそう滲みのないものとなった。



福田雅光
Masamitsu Fukuda

SN比やコントラストを高まり 中低音と低音の分解力も改善

英国コードカンパニーがオーディオ機器の端子用に開発した一種の終端装置である。機器の空き端子に装置して使う。XLR用とRCA用を主にプリアンプで試用してみる。この内部構造はアース側端子側だけに作用することが不思議である。すると、これは一種の小型バーチャルアースのような作用を狙った設計であるのか、企業秘密につつまれており十分に動作は理解できない。まず、プリのXLR端子に装置するタイプをテスト。この効果は、SN比やコントラストを高め、音の輪郭をはっきりする。使用前後を比較すると、もやもやとした曖昧な雰囲気も排除され解像度がはっきりする。中低音と低音の表現も締まりを効かせ、分解力が改善されてくる。5種類程度の素子が内蔵されているようだが、ホット、コールド間で使われているわけではない。電磁波ノイズがアース経路に作用する影響を改善するように考えられているようだ。

回路動作の基準となるアース経路のノイズを吸収させる目的と聞く。中音高音の繊細な情報もすっきり冴えている。RCA用も試すと、ほぼ同様な傾向の効果がある。



炭山アキラ
Akira Sumiyama

最高峰ケーブルに近い効果 S/Nの向上が明確にわかる

私が聴いたのははまだ量産へ至る前段階の製品で、あまり詳細を認識しているわけではないのだが、RCAやXLR、LAN、USB端子などに挿入することで、広帯域の高周波ノイズを効率よく吸い上げるといっているので、これまでにないタイプのアイテムであることは間違いない。使い方は、空き端子へ差してやるだけだから非常に簡単だ。それほど簡易なものだから、効果もそれなりかと思えばさにあらず、差した瞬間ははっきりと聴感上のS/Nが向上し、音像の彫りが深く、丹念に磨き上げられたような渋い艶をまとうようになったのではないか。面白いものだが、この効果はケーブルをコードカンパニーの最高峰である「コードミュージック」に交換した時と傾向がよく似ている。やはり同じエンジニアが開発しているからということなのであろうが、「正しい道筋を突き詰めると、自ずと似た位置に到達する」ということでもあろう。デジタルでもアナログでも様々な機器に使えるラインアップがそろっているから、まずは空き端子に1本、まずは導入してみられるとよいのではないかと思う。きっと他のコンポーネントにもあてがってやりたくるはずだ。